

2006 年度

科目名 演習 I	対象学科・学年 文学部日文3 年生	担当者 新井 由美
授業テーマ 泉鏡花の小説に関する分析と読解		
授業の概要と目標 泉鏡花は、明治・大正・昭和の三代にわたって活躍した作家であり、幻想的なもの、花柳界を舞台としたもの、あるいは児童向けの読み物等、様々なスタイルの小説を多く残しています。その卓抜した表現力は、今日の読者にはいささか難解と感じられる点もあるかもしれませんが、一字一句を丁寧に読み込み、字句の注釈やモチーフの特質についての考察、文章構造の分析等を通して、自分なりの作品の捉え方を提示することを目標とします。		
評価方法 出席状況、受講態度、発表内容、期末レポート等で総合的に判断します。		
テキスト 『外科室・海城発電』『鏡花短篇集』（いずれも岩波文庫） その他、授業中に適宜指示します。	著者 泉鏡花	出版社 岩波書店
参考書 授業中に適宜指示します。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 上記のテキストの中から受講者がそれぞれ好きな作品を選び、読み込んだ上で、各自の問題意識のもとにレジュメを作成し、調査・分析・読解等の成果を発表してもらいます。前期初回および第2 回目は、担当教員による授業ガイダンス・泉鏡花に関する基礎知識・レジュメ作成と発表の実例についての講義を行ないます。 その後、一人につき一作品を2 回（2 週）にわたって担当してもらいます（受講者が多い場合は数人のグループに分ける）。発表担当者以外の受講生にも発言を求めるので、必ず前もって当該作品を読んでおくことが出席の大前提。演習への積極的な参加を期待します。 また、泉鏡花の小説には映画化されたものもいくつかあるので、言語芸術の映像化という観点から、前後期一回ずつ時間を設けてビデオを鑑賞し受講者全員に感想を求める予定です。 (前期) 第1～2 回 担当教員によるガイダンス・泉鏡花に関する基礎知識の習得・レジュメ作成と発表の実例 第3～14 回 受講生による発表・討議 第15 回 映画化された鏡花作品についての考察（その1） (後期) 第1～14 回 受講者による発表・討議 第15 回 映画化された鏡花作品についての考察（その2）		